

購入外国雑誌の重複調整が行われる

現在、外国雑誌の重複率は48%もあり、財政的な面でも検討せざるを得ない状況となりました。商議会は「外国雑誌問題検討専門委員会」を置き、6月から8月にかけて調整を進めてきました。基本方針（原則として京都大学での外国雑誌の重複を無くする。当面は電子ジャーナルが使える雑誌を調整の対象とする。節約の出来たお金で京都大学に無い雑誌の購入を検討する。）を決め、検討期間が短いので、さらに、調整対象を50万円以上のもの 学内で10部以上購入しているもの 50万円以下でも調整可能なものに絞って、学部の協力のもとに実施されました。今回、64タイトルが調整され、約5000万円節約する結果となりました。この活動は継続して行う予定となっています。

目次

外国の農家・農業・農業政策を対象にした研究と図書・統計・資料	1
キャンパスネットワークにおける安全管理体制	3
2000年京都電子図書館国際会議開かれる	6
電子図書館京都コミュニケ	8
カリフォルニア大学システムにおける資料保存	10
教官寄贈図書一覧（平成12年8月～10月）	13
附属図書館利用統計（平成11年度）	15
農学部図書室の文献複写業務	21
長期研修に参加して	22
図書館の動き	23
パッケージ系電子出版も納本対象に 第74次国立七大学附属図書館協議会開催 国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会開催 購入外国雑誌の重複調整が行われる	

編集後記

日本で初めて開かれた電子図書館国際会議も無事おわり関係者一同ホットしています。また、恒例の展示会「連歌の世界 電子図書館で公開された貴重書」と国際日本文化研究センターから光田和伸助教授を迎えての記念講演会「連歌という遊び」も多くの市民を交え大入り満員で大成功を納めることが出来ました。京都大学附属図書館が所蔵している貴重書は電子図書館、展示会を通じて「大学図書館の市民公開」へ着実に一歩踏み出したと言えるのではないのでしょうか。(G)